



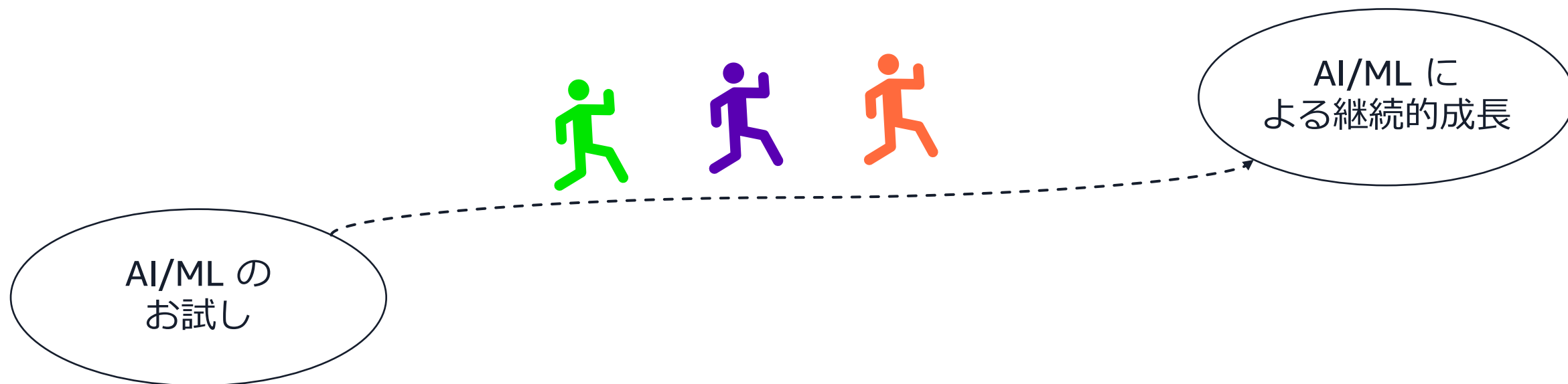
ML Enablement Workshop

改善編 : Continuous improvement

ML Enablement Workshop のゴール

AI/ML をプロダクトの成長に繋がられるチームを組成すること。

経営層の支持のもとプロダクトマネージャー（製品責任者）、開発者、データサイエンティストが組織横断でチームを組成し、1~3 か月のサイクルで継続的に成果を得て意思決定の質を高めるプロセスを開始します。



参考：[プロダクトの成長をリードする生成系 AI の活用戦略](#)

ワークショップは 2 パートで構成されます

計画のドラフトは実践編で立て終わります。実践編の結果をもとにお客様で振り返りを 1~2 時間行っていただき、改善編で必要な箇所のアップデートを実施頂きます。

実践編 (3.5 時間)

目的

チームの意思決定の弱点を理解する。
短い時間での意思決定を体感する。

手段

限られた時間で Amazon のプロダクト作りのプロセス Working Backwards を通しで行い、ユースケースと仮説検証計画を作成する。

改善編 (3 時間)

目的

意思決定の改善を含めた 1~3 カ月で成果を得るマイルストーンを決め開始する。

手段

実践編の結果を基に参加者主導で改善が必要なプロセスを実行する。1~3 カ月内のマイルストーンと具体的な Todo を決め各メンバーに割り振る。

参加人数は 3~6 名程度を想定し、それ以上の場合 +1 時間前後が必要です

本日は改善編を行います

改善編のゴール

最初の成果を得る 1~3 カ月の計画を作成する



なぜ 1~3 カ月か？

AWS の CTO に対するエンゲージメントの記録に基づくと、3 ヶ月以内には AI/ML より優先すべきクリティカルなタスクが発生することが多い。

人がある習慣を身に付けるには、平均で同じ行動を 66 日（2 カ月超）続けることが必要（※）

※ロンドン大学のフィリパ・ラリー博士の研究に基づく

準備フェーズは本日完了させる

実施編の Working Backwards で不完全だったプロセスを補完し、①に進む



Day2 : 改善編の進め方

~120min : プロセス改善の実施 (お客様が進行!)






60min : 1~3 カ月間で成果を得るための具体的な計画を立てる

改善が必要なプロセスの実施を含め、1~3 カ月間の間に最初の成果を得るための具体的な計画を立てます。

計画の開始

※改善が必要なプロセスがない場合、60min で終了します

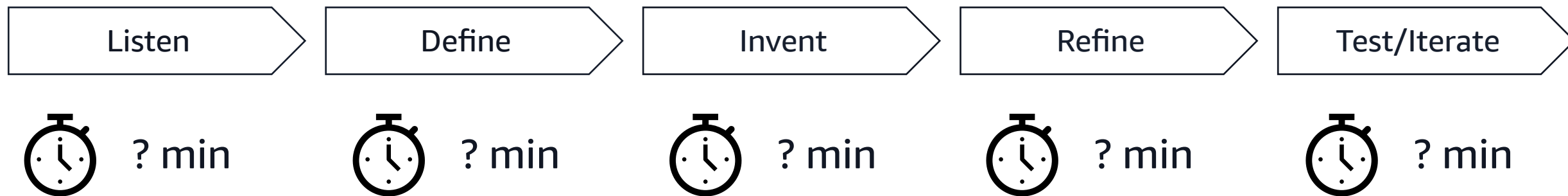
改善編を進める前の確認

1.  : **実践編のアンケート結果から、改善するプロセスを特定し準備している**
定性・定量データの収集や識者の招待は事前に実施・調整をお願いします。
2.  : **実践編のアウトプットは電子化・共有されている**
実践編のアウトプットは、チームで使えるよう電子化され、共有されている。
3.  : **プロセス改善の進行は参加者が行う**
計画を立てた後のプロセス改善から進行は参加者で実施いただきます。すでに計画の実施が始まっているためです。

プロセス改善のスタート

はじめに、各プロセスの時間配分を宣言ください。

その後、時間配分の背景について共有した後さっそくワークに入りましょう！

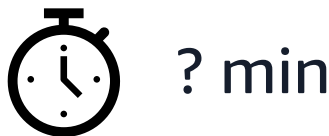


Day2 : 改善編

1. **Listen : 顧客を知る**
2. Define : 課題を定義する
3. Invent : 解決策を特定する
4. Refine : 必然性と合理性を評価する
5. Test/Iterate : 評価指標を決める
6. 仮説検証計画の作成



顧客についての情報の拡充



推奨するアクション

- 不足している情報、確度が低い情報について調査した結果を共有する
- プロダクトマネージャーや営業に偏っていた情報を改めて共有し前提を揃える

	顧客	顧客の組織	顧客の組織の環境
	IT 担当者、学生等	会社、学校、家族等	市場環境、学校の校則等
定量/定性 情報	世代 役職・肩書き ミッション・戦略 顧客単価、購入頻度 など	業界・業態 ビジネスモデル 市場シェア	業界の課題 市場の成長率 競合の数 法規制
「顧客」 への影響	-	顧客の上司の影響 顧客の家族の影響 組織の方針・ルール など	業界の慣習の影響 競合からの影響 など

Day2 : 改善編

1. Listen : 顧客を知る
2. **Define : 課題を定義する**
3. Invent : 解決策を特定する
4. Refine : 必然性と合理性を評価する
5. Test/Iterate : 評価指標を決める
6. 仮説検証計画の作成

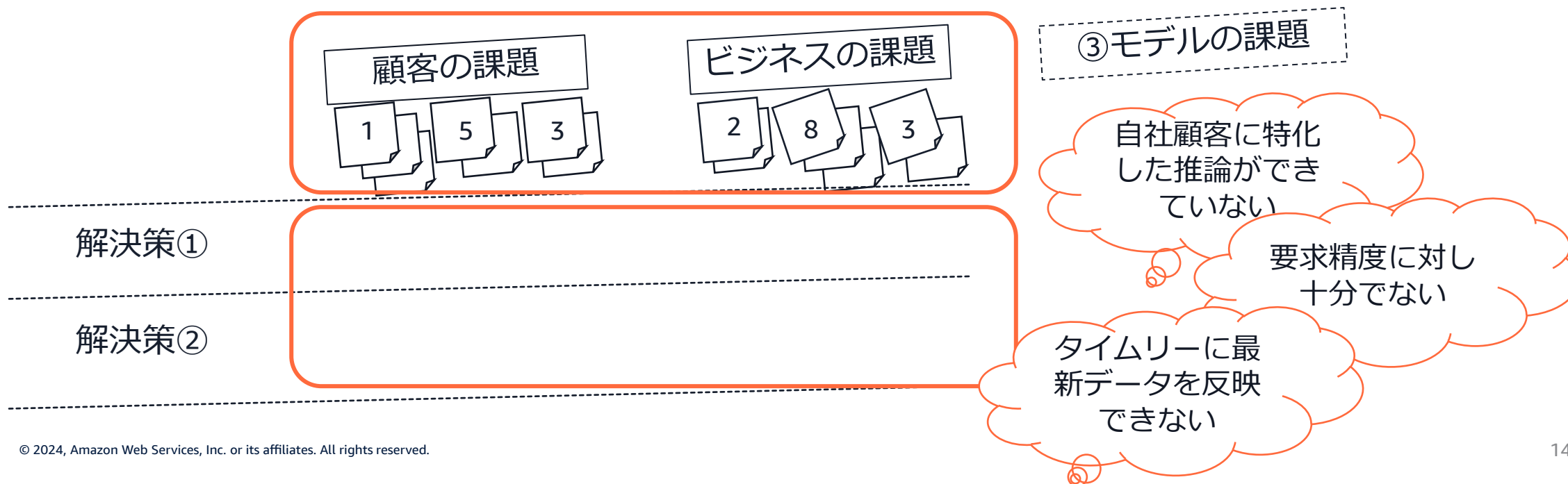


課題と重みの見直し



推奨するアクション

- Invent の採択結果や精度に問題があれば、課題の数と重みを見直す
- Invent で個々人の評価結果がぶれていれば、○△の評価基準の作成を検討する
- モデルの課題についても洗い出しと重みの設定を行う



Day2 : 改善編

1. Listen : 顧客を知る
2. Define : 課題を定義する
3. **Invent : 解決策を特定する**
4. Refine : 必然性と合理性を評価する
5. Test/Iterate : 評価指標を決める
6. 仮説検証計画の作成

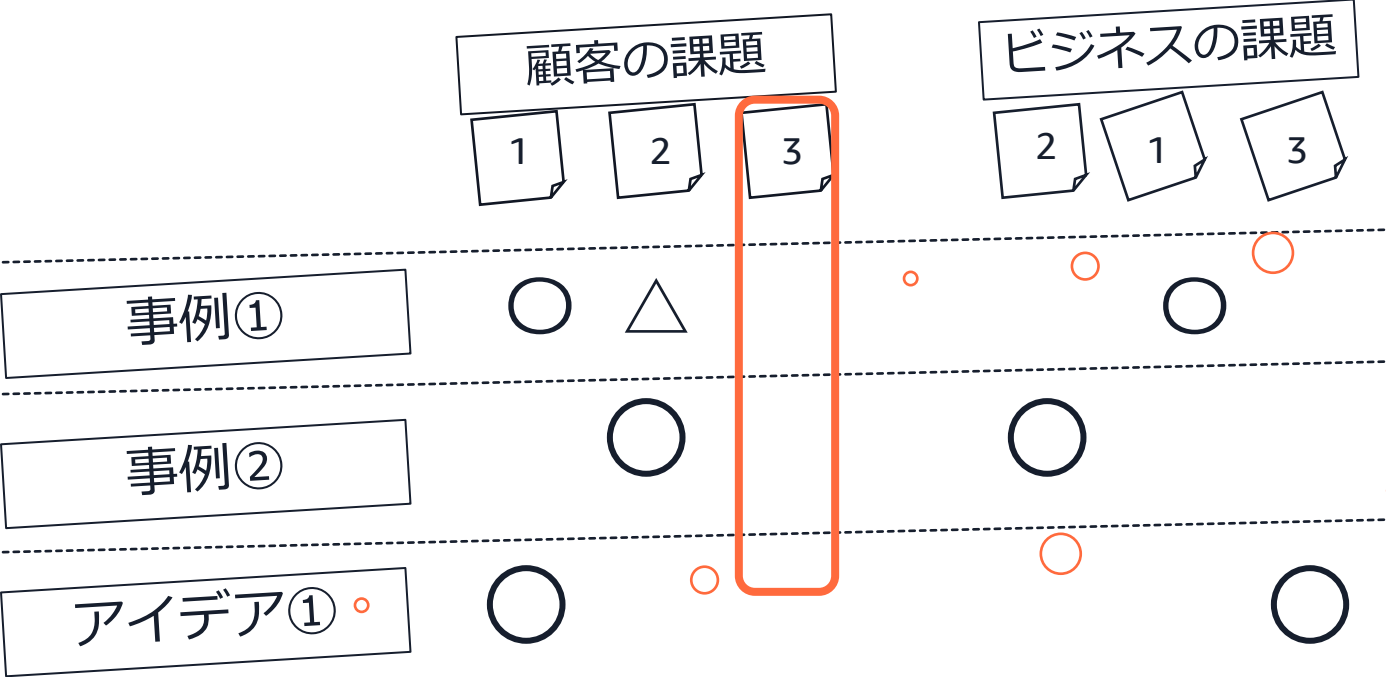


事例 / 解決策案の拡充



推奨するアクション

- 重要な課題に対しアプローチできていなかった場合、追加の解決策を収集する
- 他の業界の解決策も収集する、既存の解決策をマージするなどして洗練する



重要だが、解決されず
放置されている課題は
ないか？

他の業界の成功例や手法
で使えるものはないか？

Day2 : 改善編

1. Listen : 顧客を知る
2. Define : 課題を定義する
3. Invent : 解決策を特定する
4. **Refine : 必然性と合理性を評価する**
5. Test/Iterate : 評価指標を決める
6. 仮説検証計画の作成



企画文書のブラッシュアップ



解決策の概要

企画役

FAQ

営業役

デモシナリオ

開発者役

推奨するアクション

- 読める文章として整えることで、思考・訴求内容を洗練する
- 各パートを社内の適切なロールの方にレビューをもらい、修正する
- 曖昧、理想と現実にギャップがある赤字の記載箇所を、データやヒアリング結果でクリアにする

Day2 : 改善編

1. Listen : 顧客を知る
2. Define : 課題を定義する
3. Invent : 解決策を特定する
4. Refine : 必然性と合理性を評価する
5. **Test/Iterate : 評価指標を決める**
6. 仮説検証計画の作成



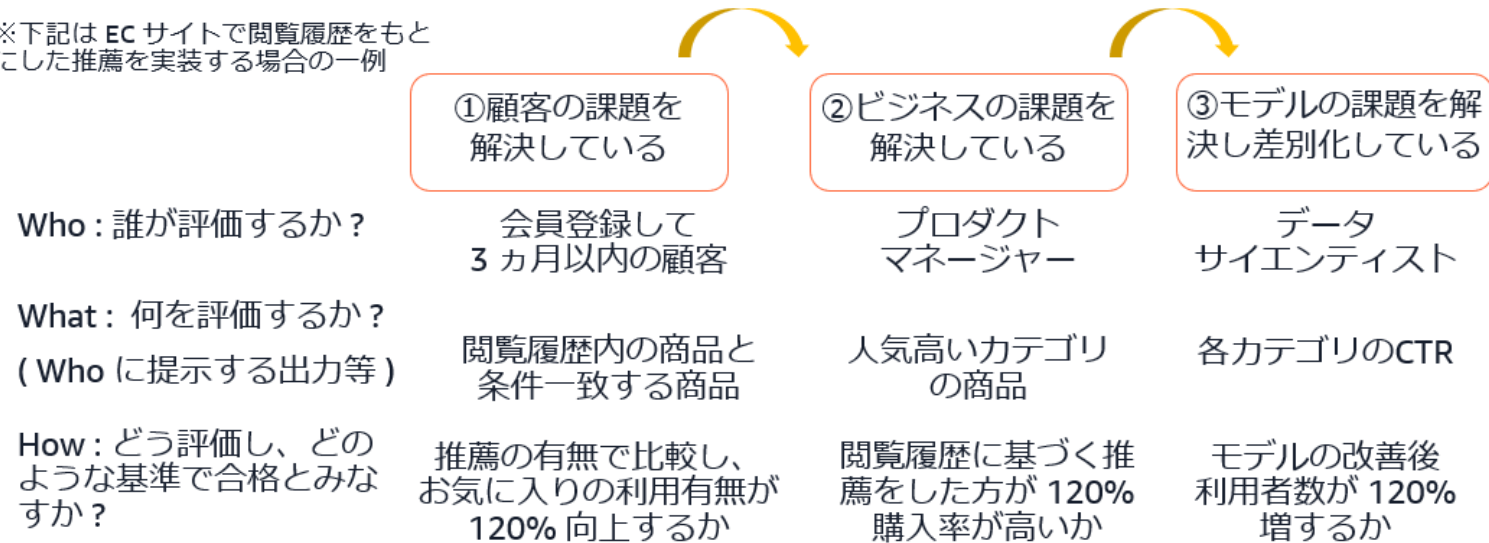
計測方法の実現性を高める



推奨するアクション

- 成長サイクルの実現を確認する
- 計測方法の実現性に道筋をつける
- 現実の数値やあるべき姿から、目標値を修正する

※下記は EC サイトで閲覧履歴をもとにした推薦を実装する場合の一例



Well Done !!



Day2 : 改善編

1. Listen : 顧客を知る
2. Define : 課題を定義する
3. Invent : 解決策を特定する
4. Refine : 必然性と合理性を評価する
5. Test/Iterate : 評価指標を決める
6. **仮説検証計画の作成**



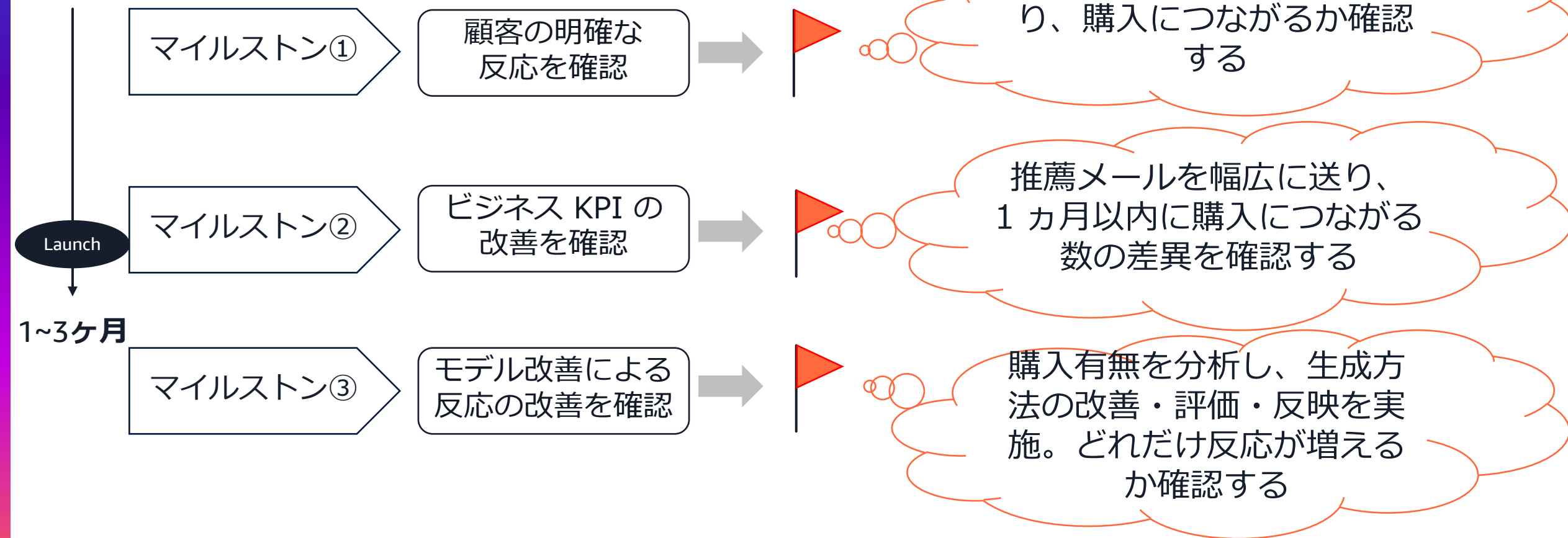
今後のマイルストーンを作成する

成長サイクルの実現に向けた 1~3 カ月の計画を作成する。



マイルストンの立て方

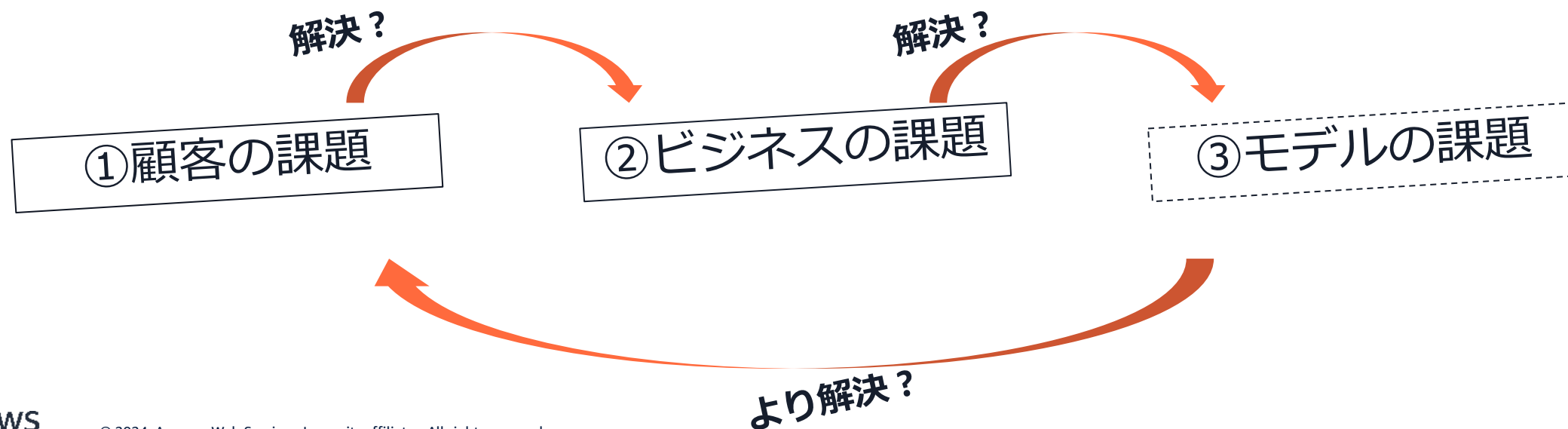
どのマイルストーンでもプラスの成果が得られるようにする。



成長サイクルに沿ったマイルストーンを立てる

デザインを行える SaaS 型のサービスである Canva の例

- ①テキストからの画像生成機能はユーザーに使われるか？
- ②画像生成機能を使ったユーザーの画像編集機能課金率は有意に高いか？
- ③ニーズに特化したモデルは、通常よりターゲットのユーザーに使われるか？



マイルストーンを決める

 20 min

Test/Iterate の結果をベースにマイルストーンを決める。



マイルストーンを決める

 20 min

Test/Iterate の結果をベースにマイルストーンを決める。

プロダクト
マネージャー

開発者

データ
サイエンティスト

マイルストーン①

ユースケースを
確定する

Todo

Todo

Todo

マイルストーン②

顧客の明確な
反応を確認

Todo

Todo

Todo

マイルストーン③

ビジネス KPI の
改善を確認

Todo

タスク
完了条件
期限
担当

Todo

マイルストーン④

モデル改善による
反応の改善を確認

Todo

Todo

Launch

1~3ヶ月

担当タスクを決める

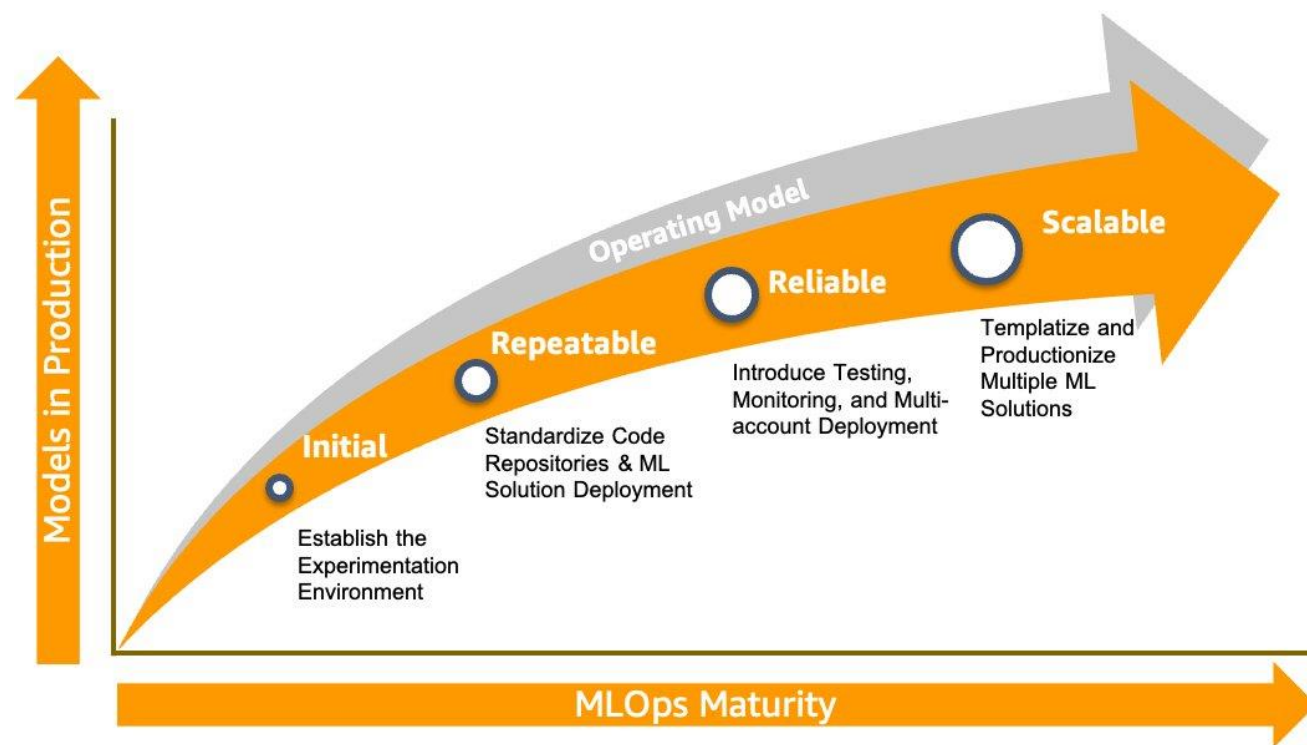
 5 min

定期的な進捗会議とマイルストーン完了時点での CXO 報告の日付を **ワークショップ** 内で **スケジューラー** に設定する。



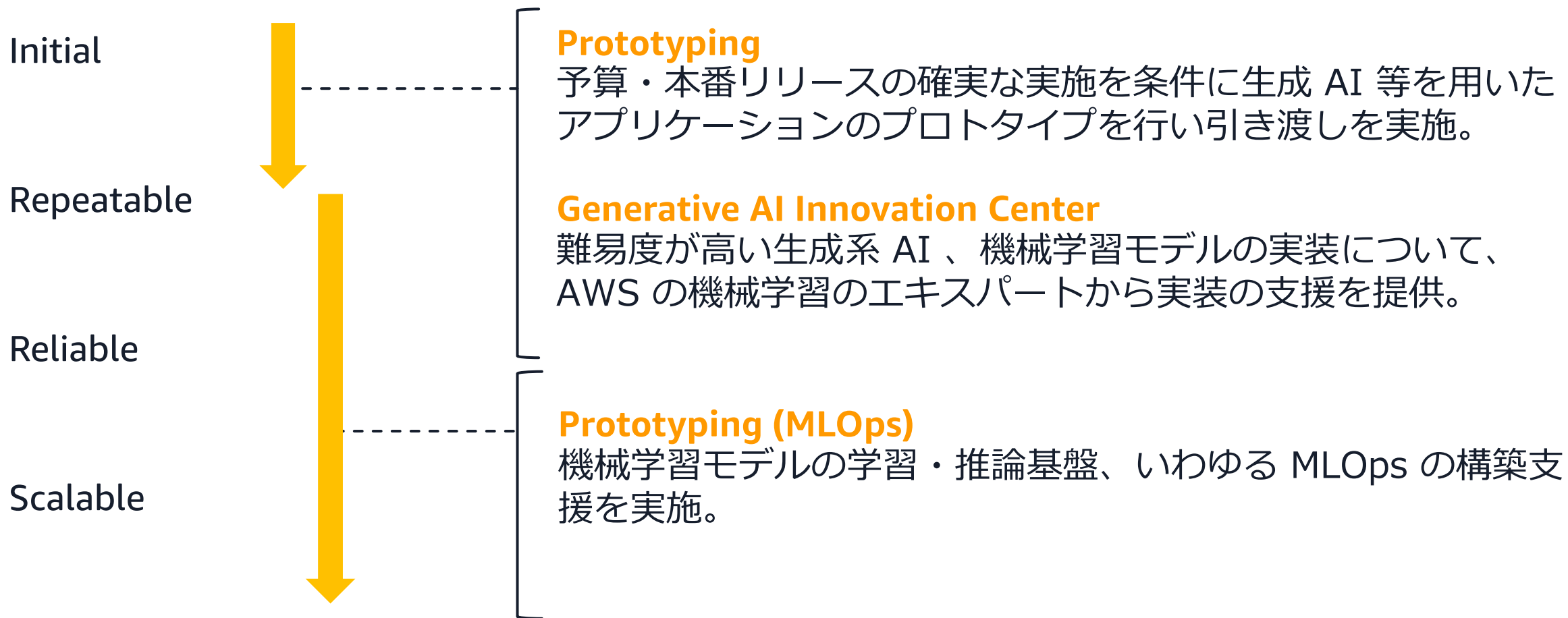
Future Step

最初のリリースを経て、AI/MLによりプロダクトを成長させるコツがわかってきたら、迅速な検証とスケールができるよう標準化を進めていく。



[Amazon SageMaker を利用したエンタープライズのための MLOps 基盤ロードマップ](#)

AI/ML の活用を支援する後続の AWS プログラム



AWS のお客様担当チームからももちろん支援を継続させていただきます。

先のフェーズの検討もご支援させていただきます

加速フェーズ
1~3 ヶ月

ユースケースを決め、
仮説検証に着手する

異なるチームとの協調を
日常的にする

チームで検証を繰り返し
意思決定プロセスを改善
し続ける

拡大フェーズ
1 年～

AI/ML の組織戦略立案

検証を通じ得られた知見をもとに、長期的な AI/ML の投資計画を立て、推進するための組織を組成する。

データ基盤・ML基盤構築

仮説検証の速度、AI/ML の開発速度を速めるためのデータ基盤や ML 基盤の設計と構築。

チームワークの醸成

MLEW から始まったチームワークを組織全体へ波及しつつ、責任ある AI 活用に向けガバナンスを整える

Thank you!

